

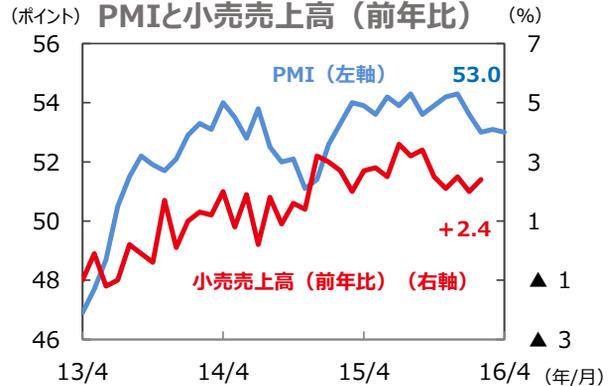
**今日のトピック** 最近の指標から見る欧州経済（2016年4月）

# 金融緩和と財政拡大で緩やかな景気拡大持続

## ポイント1 景気拡大ペースは緩やか

### 4月の景況感は横ばい圏

- ユーロ圏の4月の購買担当者景気指数（PMI）総合は53.0ポイントと、ほぼ横ばいでした。市場予想（53.3、ブルームバーグ集計）をやや下回りましたが、好悪の境目とされる50を引続き上回っており、景況感は維持されています。
- 輸出や生産は低空飛行をしているものの、小売売上高が前年同月比+2.4%と堅調を維持するなど、個人消費が底堅く推移し、景気を支えています。景気は緩やかな拡大局面にあります。



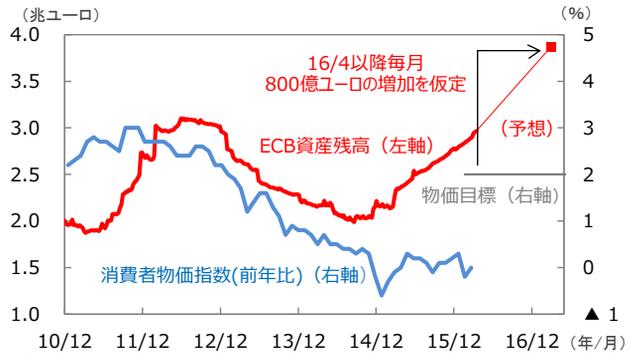
(注) PMIはMarkitユーロ圏PMI総合。データは2013年4月～2016年4月。50は好悪の判断の境目。小売売上高のデータは2013年4月～2016年2月。  
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

## ポイント2 ECBは緩和政策を維持

### 物価は低水準が継続

- 欧州中央銀行（ECB）は、4月の理事会で、3月に決定した包括的な金融緩和策の効果を見極めるため、金融政策を据え置きました。包括的な金融緩和策により、企業の借入コストを低減し、資金需要を喚起することなどを目指しています。
- 3月のユーロ圏の消費者物価指数は、前年同月比0.0%と、ECBが目標とする2%を大きく下回っています。景気拡大ペースの鈍さや原油価格下落の影響から物価は低水準が続くとみられます。

## ECBの資産残高と消費者物価指数（前年比）



(注) データは2010年12月～2017年3月。ECB資産残高は、2016年3月末の残高に、4月以降毎月800億ユーロの増加を仮定し試算。消費者物価指数のデータは2016年3月まで。  
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

## 今後の展開 緩やかな景気拡大は株式市場をサポート

- ECBは当面包括的な金融緩和策の効果を見極める姿勢を続けるとみられますが、年後半に物価の状況に応じて、緩和を強化する可能性があります。また、ユーロ圏各国は、難民対策などにより財政支出を拡大するとみられます。
- 中国の景気減速、難民問題、英国の欧州連合（EU）離脱問題、テロ再発などにより、市場の不透明感が高まるリスクには注意が必要です。しかし、緩やかな景気拡大は株式市場の下支えになるとみられます。

## ここもチェック! 2016年4月21日 「Brexit」英国のEU離脱（欧州） 2016年3月11日 ECBの追加緩和と市場動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。